

カナダの野生動物



- ① クルアン国立公園
- ② ナハン国立公園
- ③ ヨーホー国立公園
- ④ ジャスパー国立公園
- ⑤ バンフ国立公園
- ⑥ エルク・アイランド国立公園
- ⑦ ウッド・バッド・アロー国立公園
- ⑧ プリンス・アルバート国立公園
- ⑨ プラスクア国立公園
- ⑩ アンティコスタ国立公園
- ⑪ ケジミック国立公園
- ⑫ プリンス・エドワード・アイランド国立公園
- ⑬ アウエイトゥック国立公園

生態もよくわかっていない。

獲物は主にカンジキウサギ。大きな目と鋭い耳で獲物の存在をかきつけると、通り道に待ち伏せして、一気に襲いかかる。ライチョウ、ネズミ、リスなども食べる。

以前は、カンジキウサギの生息する針葉樹林帯なら、アメリカ各地に住んでいたが、毛皮が重宝がられて乱獲の対象となり、一九〇〇年頃から減り始めた。一九五〇年には米国、カナダ南部からすっかり姿を消したが、カナダでは六〇年代初めにはほぼ元通り回復した。五〇年代に毛皮の値段が下がって、捕獲数が減ったのが主な理由である。

シロフクロウ Snowy Owl

シロフクロウは、世界中のフクロウ科百二十三種のうちでもごく大形で、翼を広げると一・五メートルもある。わずかに褐色の斑点がある以外、全身はほとんど純白だ。鳥類としては最北端、北極圏のツンドラ地帯に住む珍鳥。

白夜に環境適応して昼間でも行動する。性質はおとなしいが、人や動物がそのなわばりに侵入したりすると、喚声をあげて追い払い、巣に近づく者には襲いかかる。

冬の寒さがきびしくなると食べ物（主としてノネズミ）が不足してくると、五年に一度くらいの割合で南下し、そこで冬を過ごす。多くの人々にとってはこの珍鳥を観察する貴重なチャンスだ。この

ときをねらってハンターが捕殺しないよう、各州ではシロフクロウの狩猟を禁じている。まれに北海道にも飛んてくることもある。

ピューマ Cougar

大型のネコ科の動物で、アメリカライオン、あるいはペンサーという名前でも知られている。南北アメリカに広く分布して、シカやウサギなどの小動物を捕って食べる。昔はよく家畜を襲ったため、人間に目の敵にされ、一頭につき五十ドルの賞金がかけてさかんに捕殺された。

今日、ピューマは人間の居住地から離れた、カナダ東部と西部の森林地帯に住



んでいる。捕殺賞金の慣行は廃止されたが、東部ではまだ絶滅の危険が去っていない。

バイソン Bison

バイソン——は知らなくても、バッファローなら知らぬ人はいない。西部劇によくでてくる、肩が大きくもりあがり、頭から肩にかけて長い毛におおわれたア